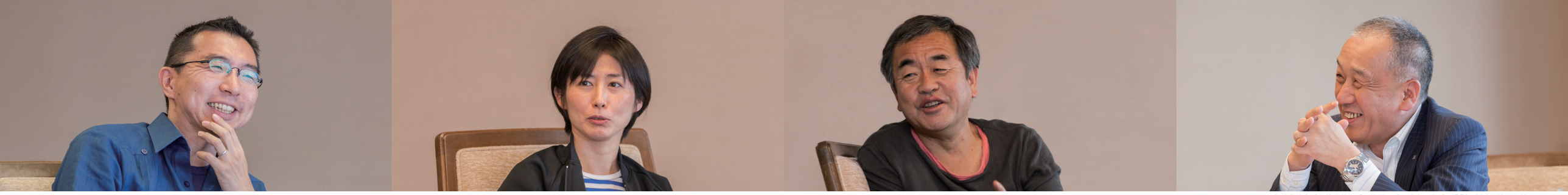


左から藤本壮介氏，乾久美子氏，隈研吾氏，池上一夫氏．撮影：新建築社写真部

「ある地方都市のストリートが集合住宅で再生する．新しい暮らしがはじまる」

――地方の集合住宅が持つ新たな可能性　長谷工 住まいのデザイン コンペティションへ向けて

隈研吾×乾久美子×藤本壮介×池上一夫

今年で第8回を迎える「長谷工 住まいのデザイン コンペティション」．2007年に長谷工コーポレーション創業70周年を記念して開催された第1回から，建築を志す多くの学生に集合住宅にまつわる課題に取り組んでもらいました．これまで密度や時間，立て替え，リノベーションなどがテーマになり，前回の第7回「街っぽさのある集合住宅」では街のような豊かさを持った集合住宅について考えてもらいました．第8回の開催に先立ち，今回の課題や，今，集合住宅をどう考えるかなどを審査委員の方々に話し合っていただきました．　（編）

各住戸まで踏み込んだ提案を

――前回の課題「街っぽさのある集合住宅」と入賞案はいかがでしたか．

隈　箱っぽさ，コンクリートっぽさから解放されることに個人的に関心があります．コンクリートの対概念として，「街っぽさ」はすごく説得力のある言葉でした．英語にすればStreetwise（都会生活に通じた）に近くて，ストリートという言葉は「街」に似たニュアンスを持っています．曖昧な言葉は多様なイメージを喚起できることから，課題に適していると思います．案については，空間の表現の仕方としてセクション（断面図）が大事だと僕は感じています．なぜなら最近の人はすぐにパースを描いてしまう．パースは見た目はきれいなのですが，身体的にイメージしづらい感じがします．前回の最優秀案（右頁）はセクションの線が建築のキャラクターをつくっていて，セクションの持っている力を最大限に活かしていました．

乾　「街っぽさ」というのは非常に抽象的な表現なのですが，割と具体的なイメージをみんなに持ってもらいやすい言葉なので，こちらが望んでいることがストレートに伝わったのではないかと思います．そういう意味で案を出す方も見る方もお互いに楽しむことができたという印象があります．

藤本　街のごちゃごちゃした感じから出発している案が多かったのですが，最後まで残った案はそれぞれユニークな視点や切り口があって，多様だったと思います．審査している時は，ただ優劣をつけるというよりも，課題の意味を改めて考えさせられ，選んだ案によって課題が再構築されていきました．実は課題はこういうことだったと気づかされておもしろかったですね．同じ価値基準の中で競うのではなく，審査委員自身も考えさせられるような課題で理想的だったのではないでしょうか．

池上　これまでは街に対して集合住宅がどう向き合うかを大きなテーマとしており，提案もそこに力点を置いたものが多かったと思います．前回は100戸という規模が学生にとって大きすぎて，細部まで提案できていない印象がありました．また，審査の傾向を学生に読まれていると感じる場面もあり，そこは反省点です．今回は集合住宅の各住戸まで踏み込んだ提案を期待したいですね．

大きなものに対する苦手意識

隈　100戸はかなりの規模だから，普通にやると箱っぽくなってしまう．そこに街っぽさを与えるのが前回の課題で，結構苦戦したのではないでしょうか．最近の学生は大きいものをどう解いてよいのか分からなくなってしまう傾向がありますね．

池上　長谷工が手がける集合住宅は大規模なものが多いのですが，それを意匠設計者がほとんどひとりで担当することに新入社員は驚きます．いきなり200戸や300戸の集合住宅を設計することになると，一体どこから手をつけてよいのか困るようです．とはいえ，経済原理など様々な条件と格闘しながら，4年くらいでできるようになりますね．

乾　私が教えている東京藝術大学の場合，課題の規模が大きくなると，突然案が昔っぽくなる．今は大きくておもしろい建築がないからかもしれません．

隈　それは大きいものを計画する際の現代的手法が見つかっていないからではないでしょうか．未だに丹下健三の手法で止まっていて寂しい気がしますね．

乾　そうですね．学生を見ていると，大きなものをつくりたくないような雰囲気があると思います．少なくとも藝大の学生たちは思い切って形をつくるのを嫌がります．その理由が日本の問題か，若者の問題か，建築の問題かは難しいところですが．

隈　指導者側の問題もあると思いますよ．講評会の時，そもそも今の時代に，この敷地にこんな建物がいるのかと，デザインではなく「そもそも論」で否定してしまう．最初から否定されると学生は萎縮してしまいますよね．まずは一種のゲームとしてデザインをさせてみる．そこで出てきたものに対して，具体的に議論して，プログラムのどこがまずいのかを学生に認識させてあげる方法もあると思います．特にデザインを教える意匠系の先生は，デザインすることをもう少しポジティブに伝えていかないといけないのではないかと思います．

藤本　僕が学生だった時は，先生はいろいろ言うけれど，それをさらにひっくり返すくらいびっくりさせてやろうと思ってやっていましたね（笑）．

地方都市への注目

――それでは今回の課題ではどういうことを考えるとよいでしょうか．

隈　シェアハウスは最近いろいろなところで話題になっていますね．リビングとキッチン，水回りをシェアするのが普通ですが，シェアの概念をもう少し広げてもよいのではないかと思います．

乾　集合住宅はもともと都市的な問題を考える上で出てきたものだと思うのですが，最近地方都市へ行くと，あえてここに集合住宅を建てなくても，戸建て住宅の方がいいんじゃないかという場面に遭遇します．これまでの課題敷地はずっと東京や大阪など大都市でしたが，思い切って地方に設定して考えるのはおもしろいのではないでしょうか．都市部と違って地方だと自分たちで野菜などをつくっていたり，コミュニティが密だったりして，お金を介さないでいろいろなものをやりとりできる．そこに建築のプランニングがうまく関わってくると，都市部では考えられないような空間の可能性が生まれるような気がします．徳島県神山町には民家や蔵をオフィスにコンバージョンした「えんがわオフィス」（本誌1404）がありますが，集合住宅にも地方にあることを活かす方法が考えられそうです．

隈　先日『フルサトをつくる』（伊藤洋志・pha／著，東京書籍）という本を読みました．シェアハウスは都市的なものだと思っていましたが，和歌山県の熊野を拠点にシェアハウス・シェアオフィスをしていて，おもしろかったです．ここでは仲間内だけでシェアするのではなく，地元の人たちともいろいろなものをシェアしていました．こうしたお金を介さない経済活動があることをわれわれは忘れがちで，全部お金に価値を還元してしまいがちです．

藤本　地方のようにそれほど高密でないところであえて集合させると，なぜ集合させるのか，ということに応える価値を付け加えていけそうな気がします．集まって住むことでお金（経済効率）以外のどんな意味があるのかを考えてみるのはよいかもしれませんね．そこで新しい生活の価値をつくることになれば，ひるがえって都心で集合住宅をつくる時に，その価値をフィードバックできるかもしれません．

池上　建築は経済と密接に関係していますから，お金を介さない経済活動という私たちが見過ごしやすいものと建築を一緒に考えてもらうのは興味深いですね．経済といえば，建設業は技能労働者不足が深刻で，オリンピックが開催される2020年までは需給が逼迫しそうです．首都圏だけでなく，地方においても人手不足が懸念されます．そうした状況で，少ない人手で効率的に建てる，建築の「つくり方」に着目した課題が考えられるかと思いましたが，これは学生にとっては経済活動を考える以上に難しくなってしまいますね．

シャッター通りの再生

――敷地は地方ということですが，具体的な条件はどうしますか．

乾　たとえば，重要伝統的建造物群保存地区に指定され，なかなか手入れができない古い街並があるとします．新しく人が入居するのに適した建物は少なく，街全体をどう運営していいのか分からない．普通だと規制によってインテリアのリノベーションくらいしかできませんが，課題として集合住宅を使った提案をしてもらうのはどうでしょうか．

隈　もう少し一般的な課題の方が学生は取り組みやすそうです．シャッター通りになっている商店街の再生は，授業の課題となっている学生も多いと思います．これまでは地方の商店街でも都市部の普通の集合住宅をぽんと建てていたと思いますが，それとは異なる方法を考えてもらうのはどうでしょう．

乾　それは現実問題としてすごく求められていますよね．

池上　そうですね．長谷工でも老朽化した集合住宅の建て替えの実績はかなりありますが，今後再開発を含めもっと増やしていこうとしているところで，商店街の再生も今後関わってきそうなテーマです．地方での取り組みというとまだまだこれからですが，地方でも首都圏や近畿圏と似たマンションを見かけると，どうして同じなんだろうと思うことがあります．大都市のミニチュア版になると，地方のよさや敷地の個性が見えにくくなってしまいます．

藤本　先ほど隈さんがStreetwiseとおっしゃいましたが，地方の商店街を敷地にする場合，敷地周辺だけでなく商店街全体を考えられるようにするために，道を挟んだ両側，さらには裏道まで含んだ敷地にしてはどうでしょうか．現実的にはそこまで一度に変えるのは難しいかもしれないけれど，仮にでも通り全体を考えられる可能性を示してあげると，夢は広がるのではないでしょうか．

隈　それはいいですね．そういう敷地はなかなかないけれど，それができると商店街の問題は一気に解決の選択肢が増えると思います．

乾　街と集合住宅の関係もそうですが，多くの場合，集合住宅同士の関係があまりよくないことが気になっていました．ふたつの敷地を設定すれば，集合住宅同士の関係を考えるきっかけにもなると思います．

池上　集合住宅の各住戸まできちんと考えてもらうためにも，規模はあまり大きすぎない方がいいと思います．学生にはそこに住む人のキャラクターを想定して取り組んでほしいと思います．

藤本　第6回が30戸でしたが，住宅の延長のような感覚で取り組めていた印象があります．100戸は大変なので，30戸くらいが考えやすいかもしれません．

隈　地方都市を敷地に選ぶのははじめてです．商店街をもう少し幅広くストリートと捉えてもいいと思いますが，地方都市のストリートを再生させる時に，集合住宅が武器になるというのは集合住宅の新たな可能性だと思います．

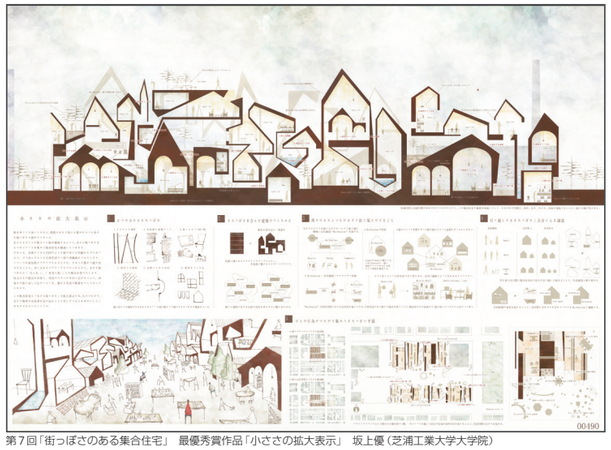
藤本　単にデザインするのではなく，ストリートを「再生させる」という目的がはっきりしているのがよいですね．

隈　そして，そこに住む人がなんらか街の活動に関わっていることを提案してほしいですね．そうすると地方の新しい暮らしが見えてきます．一部が店舗になっていたり，塾や介護施設，保育園など可能性はいろいろあると思いますし，そうなると建築のプランも関係してきます．

藤本　集合住宅以外のプログラムが入ってきた方が，これまでとは違う新しい暮らしがはじまる予感がしてよいですね．タイトルもたくさんのキーワードを繋げた，長いものにしてはどうでしょうか．

――では今回は「ある地方都市のストリートが集合住宅で再生する．新しい暮らしがはじまる」に決定します．

（2014年5月23日，長谷工コーポレーションにて
文責：本誌編集部）



第7回「街っぽさのある集合住宅」　最優秀賞作品「小ささの拡大表示」　坂上優（芝浦工業大学大学院）